

毎日(大阪)

1987年(昭和62年)11月10日 火曜日

14版 社会 (22)

毎日 11/10(火)

石綿、1300校で使用

全国の全面撤去には200億円 小中高

教室や体育館の天井に発がん物質・石綿(アスベスト)を吹きつけている学校が、公立小、中、高あわせて全国で千三百校にのぼることが、九日、文部省の調査でわかった。百校中ほぼ三校の割合。来年度から工事費補助を拡大するが、全面撤去には二百億円ぐらいかかる見込みだ。国立大学などでも延べ三千万平方メートルにわたり石綿が使われている。

この調査は、今年五月、都道府県教育委員会を動員し、吹きつけが事実上禁止された五十年程度までに建った校舎、体育館、寄宿舎を対象に現状をチェックした。

それによると、石綿吹きつけが確認されたのは、小学校七百一十一、中学校三百二十二、高校二百七十三、養護学校など特殊教育学校三十一の計千三百三十七校。学校別では、高校が同六・五校と高く、小二・九校、中三・一校、特殊教育三・六校。東京、愛知、福岡の学校に多い一方で、鳥根、徳島の両県はゼロ。

吹きつけ箇所を分けると、教室は計六千九百四十一室に達する。小学校三千九百五十三室、中学校千六百五十六室、高校千二百四十八室、特殊教育学校八十四室の内訳。小、中が普通教室での吹きつけが目立つのに対し、高校は音楽室など特別教室の方が多い。体育館は計三百三十九棟だが、その半数を小学校が占める。ほかに、高校などの寄宿舎の計二百十四室でも確認された。

大阪では、石綿が使われていた府立学校二十一校について、府は約一億六千万円をかけた緊急の工事は年度内に撤去したり、封じ込める。また、ゼロの小、中学校で天井部分での使用が見つかると、堺市では、百二十万を振りつけて撤去する工事を終えている。